Joy風
Faculty of Informatics
Shizuoka University Newsletter
Vol.31, October 2023
https://www.inf.shizuoka.ac.jp
October2023
vol.31
静岡大学情報学部

行事報告

Report of Events

令和５年度静岡大学入学式・情報学部春季保護者会

情報学部学生委員会　金 明美

令和5年4月4日(火)、静岡市のグランシップにおいて令和５年度静岡大学入学式と情報学部春季保護者会が執り行われました。入学式は、昨年同様、感染症拡大防止のため、午前･午後の２部制で実施されましたが、4年ぶりに保護者の方の参列が可能となりました。それに合わせて新入生保護者の皆様を対象とする春季保護者会も対面での開催を再開いたしました。

入学式は、大ホールにて挙行され、情報学部･情報学専攻は午後の部･15時からの式典でした。保護者の方も見守るなか、学部244名、専攻69名の新入生たちが期待を胸に新たな一歩を踏み出しました。

保護者会は、入学式前の13時より会議ホール風において開催し、123名の新入生保護者の方にご参加いただきました。学部長による歓迎の言葉にはじまり、浜松工業会理事長の挨拶、そして学部の主要委員会の各委員長から教学や学生生活、卒業後の進路選択などについての説明をさせていただきました。最後に質疑応答が交わされ、保護者の方から貴重なご意見もいただきました。ありがとうございました。当日の様子は、静大テレビジョン(https://sutv.shizuoka.ac.jp/channel/3)の動画でもご覧いただけます。

入学式

春季保護者会

令和５年度新入生歓迎スポーツデイ

情報学部学生委員会　金 明美

令和5年4月22日(土)午後、浜松キャンパス運動場において新歓スポーツデイを開催しました。本イベントは、コロナ禍の影響で令和2年度より実施困難となった新歓合宿に代えて、令和3年度から感染対策を講じて開催している新入生歓迎イベントです。合宿の場合と同様に、プログラムは全て学生組織である情報学部新歓委員会執行部が企画し、そこにボランティアの上級生スタッフも加わり、運営にあたっています。

当日は、笹原学部長による開会の挨拶に始まり、前半は、学生サークル(少林寺拳法部、鰻陀羅)による演舞披露、そしてアルティメットサークルによるルール説明に続いて、アルティメット大会が行われました。後半は、借り人競争が行われました。競技は何れも、「新入生セミナー」の16クラス対抗で行われましたが、上級生も混じって一緒に楽しみました。参加した新入生は200人を超し、上級生やクラス担任等の教員を含めると総勢250人以上が一堂に会する盛況な行事となりました。終了後のアンケート結果からは、クラス内外の多くの人と親交を深めるよい機会になったことがうかがえます。躍動感ある数々の写真は写真部の学生たちが撮影･提供してくださいました。

サークルの演舞

アルティメット大会

2023 年度夏季オープンキャンパス

情報学部広報委員会　高瀬 奈美

令和５年８月２日、対面でのオープンキャンパスが開催されました。実際に教職員や学生に会って説明を受けたり、体験できたりする催しが増えています。定員も午前･午後とも300人と昨年度の３倍となり、コロナ禍前と同様多くの方が来場されました。

全体説明会では、学部の説明が行われた後、研究室と授業内容が紹介され、展示会場では、来場者が学生の説明を熱心に聞いたり、機器を操作したりしていました。また、ミニ講義も行われ、最先端の研究が分かりやすく紹介されました。野村祐一郎先生(情報科学科)による「人工知能の現在地 -パーセプトロンからChatGPTまで」、荘司慶行先生(行動情報学科)による「Web検索エンジンのしくみ：情報アクセス技術入門」、そして高口鉄平先生(情報社会学科)による「あなたは"いくら"？-個人情報の経済価値」です。

それから、今回は初めてキャンパスツアーが開催されました。小グループに分かれて施設や教室に案内され、学生の説明を受けるというものです。また、個別の相談会も行われ、過去問や学部説明動画も提供されました。その結果、来場者からは「学部の雰囲気、研究室の内容を知る良い機会になりました」「実際に学生さんにも話を聞くことができ、大学生活のイメージができました」などの感想が寄せられるなど、今回のオープンキャンパスは盛況のうちに終了しました。

オンラインオープンキャンパス(https://www.inf.shizuoka.ac.jp/opencampus2023/)も開催しております。ご覧いただき、ご意見をお寄せください。

展示の様子

キャンパスツアー

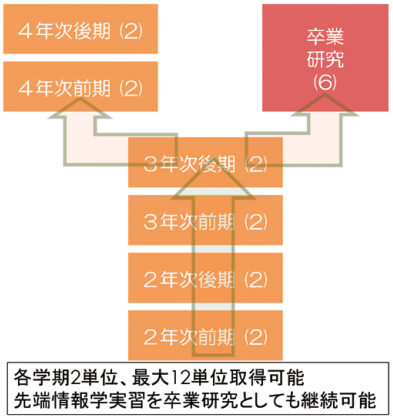
先端情報学実習

先端情報学実習世話人会 情報科学科・准教授　尾張 正樹

先端情報学実習は学生の主体性に基づいて起案・実施される研究プロジェクトであり、２年次から卒業するまでの３年間一貫して本格的な研究活動を行えます。本実習では、「〇〇を成し遂げたい」意欲の高い学生と、情報学に関わる各分野の高い専門性を有した複数の教員が一体となって学術研究に取り組みます。また、それぞれの研究プロジェクトには、所属学科が異なる様々な分野の教員が複数名参画し、本学部が掲げる文工融合の理念に基づく情報学の研究・指導が実践的に行われています。

先端情報学実習では、現在、11 の研究プロジェクトが実施されており、２年生から４年生まで合わせて 100 名以上の意欲的な学生が各プロジェクトを主導的に進めています。本実習で取り組んでいる研究テーマは、継続して卒業研究とすることや、大学院に進学する場合はその後の修士論文や博士論文に繋がる極めて長期的な研究として深めることができます。

また先端情報学実習は「優先配属制度」の一部として運用されています。この制度は先端情報学実習に携わっている学生が一定の条件を満たした場合、通常の研究室配属とは異なるプロセスで希望する研究室に優先的に配属されるものです。この制度を活用することで、学生の所属学科とは異なる情報学部内の他学科の研究室で多様な研究を行うことができます。



先端情報学実習 プロジェクト紹介　雑誌『浜松鈴鈴』の制作を通したデザイン効果の研究

情報社会学科３年　柿崎 航介

本プロジェクトは、読者の関心を効果的に誘引する冊子デザインの探求を目指した、初めての学生提案企画です。オリジナルの地域情報誌『浜松鈴鈴』の企画・制作・発行を学生自らが行うことによって、制作者の立場からより具体的な視点を獲得することを期待しています。

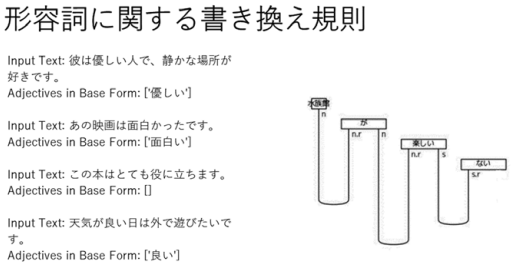
元々コンテンツ研究に興味があった私は、同学年の安江さんと協力して２年次にプロジェクトを立ち上げました。現在では７名の学生が所属しており、制作活動や勉強会などにおいても部員同士の積極的な議論を行える主体的な組織づくりを意識しています。

顧問の先生方の手厚いサポートにより、既に２号の『浜松鈴鈴』を刊行しました。取材、雑誌制作、課題発見、研究調査と、さまざまなタスクをすべて学生主体で進める大変な取り組みですが、参加している部員にとって有意義な実習となるよう心がけていきたいと考えています。

先端情報学実習 プロジェクト紹介　実世界と数理世界を結ぶモデリングとシミュレーション

行動情報学科３年　岩城 陽菜

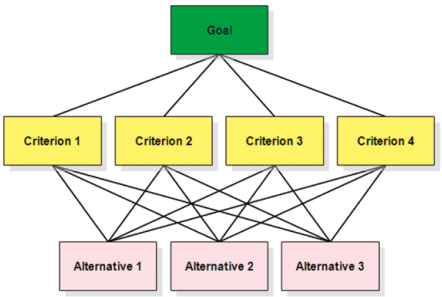
私が参加しているプロジェクトは「実世界と数理世界を結ぶモデリングとシミュレーション」というもので、複数の教員の方々の中から興味のある分野を選択し、学習や研究を行うことができます。私は尾張先生の下で量子情報処理についての研究を行っています。プロジェクト内で半年のうちにプレゼンテーションを行う機会が中間・期末の二回与えられています。このプレゼンテーションでは他の分野の研究を行っている教員の方々から質問やアドバイスをいただくことができ、学習や研究を進めるうえで大変貴重な機会です。特に量子自然言語処理について興味があり、現在は「lambeq」というソフトウェアを利用した日本語での自然言語処理に関する研究を行っています。このプロジェクトは、普段の授業では得られない機会を得られるという大きなメリットがあると考えています。

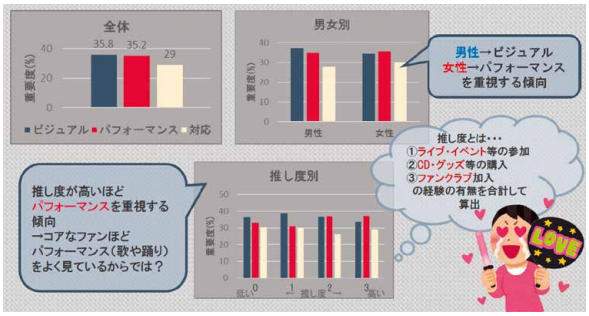


先端情報学実習 プロジェクト紹介　見えない価値を測る～情報の経済価値分析プロジェクト～

情報社会学科４年　酒井 友理子
行動情報学科４年　田﨑 智成

このプロジェクトでは、様々な情報・イメージなどの「見えない」価値を「見える化」する手法を学び、実際に様々な分析を行います。例えば、人がある意思決定を行う際に、考慮しなければならない要素を数値化し各要素の重要度を定量的に把握する「AHP」という手法を用いて、実際に調査分析を行いました。取り組んだ一例として、人に「推し」ができるという意思決定に関して、「推し」に何を求めるかを分析しました。具体的には「ビジュアル」「パフォーマンス」「ファン対応」のそれぞれについて、どの程度重視し求めるかを数値化し比較しました。分析の結果から、「推し」に求める要素が明らかになりました。このように、身近なもの「見えない」価値を数値によって表現、評価できるところが、このプロジェクトの醍醐味です。





人間中心ソフトウェア工学

情報科学科　大森 隆行

2023年4月に着任した大森隆行です。専門はソフトウェア工学です。博士課程以降、ソフトウェア進化に関する研究を中心に行っています。既存のソフトウェアに何か変更を加える時、まずそのソースコードの過去の変更を理解することが大切です。これを支援するために、開発環境上で行われた編集作業を記録するツールを構築し、記録された履歴の応用手法を提案してきました。

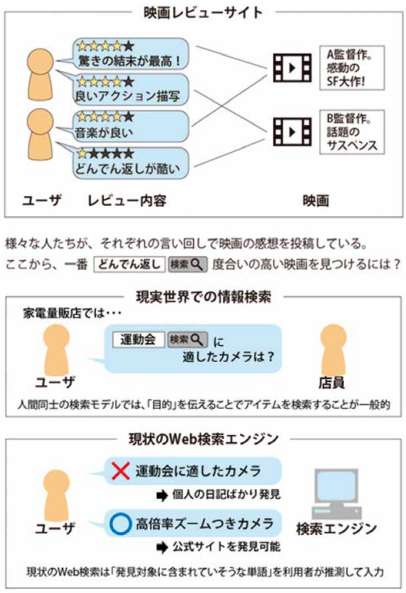
学生の頃から、人間（開発者）が効率的にソフトウェアを構築するためにどのような支援ができるか（さらには、情報技術が人間にどのような影響を及ぼすか）に興味を持って、研究を進めてきました。ソフトウェア進化はあくまでモノ（ソフトウェア成果物）の進化に主眼を置いた研究分野ですが、成果物の変遷の過程でヒト（開発者）がどのようなことを考え、どのように作業を行ってきたのか、人間を中心に据えた研究を進めていきたいと考えています。真に人間をサポートするソフトウェア工学の実現を通して学部に貢献していく所存です。よろしくお願い致します。

MAINT2019（中国・杭州）での発表の様子

社会と人を考える情報アクセス技術

行動情報学科　荘司 慶行

2023年４月に講師として着任しました荘司慶行です。ウェブ情報検索や推薦アルゴリズムなどの、情報アクセス技術を専門に研究しています。近年のインターネットはただの文書置き場ではなく、コミュニケーションの場だったり、ビジネスの場だったり、「もうひとつの社会」へと進化してきました。こうしたソーシャルウェブにおいて、必要な時に、必要な情報を知ることができるようにするため、データマイニング技術やAI・機械学習技術、認知科学の知見などを駆使して、様々な研究を進めています。静岡大学の情報学部は文理融合型で、こうした研究を他の先生方や学生の方々と進めていくのに、向いている環境だと考えています。皆さんと一緒に、たくさん面白い発見をして、たくさん世の中に発表していきたいと思っています。



誤りのあるデータと人工知能の頑健な学習

情報科学科　野村 祐一郎

今年度の4月に着任した野村祐一郎と申します。専門は機械学習·深層学習で、学習データの質が悪い状況でも、モデルを頑健に訓練する手法を研究しています。近年の人工知能の発展は凄まじく、ChatGPTなどの高性能なアプリケーションが続々と登場しています。しかし学習データのアノテーションに間違いがあると、人工知能は誤った学習を進めてしまい、性能が低下してしまう問題があります。人工知能の性能を維持するため、アノテーションの誤りに対して頑健な学習方法が重要となっています。

これからは人と人工知能の協調により、データを効率的に改善する手法について研究したいと考えています。また今年度の後期から、人工知能·機械学習の授業を担当する予定です。この静岡大学で皆さんと共に人工知能について学習·研究できることを楽しみにしています。

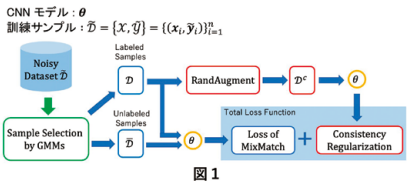
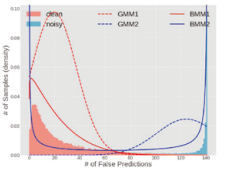


図１



クリーンサンプル　：誤予測数が少ない
ラベルノイズサンプル　：誤予測数が多い

図２

図１：クリーンなサンプルを特定し、摂動を加えて重点的に学習する手法

図２：深層学習の誤予測に基づく誤ったアノテーションを特定する手法

「後ろ歩き」でテレビを学術的に研究する

情報社会学科　丸山 友美

新年度より、メディア文化論などの講義を担当しています丸山友美です。幼少の頃からテレビが大好きで、「テレビ博士になりたい！」と思って走り続けていたら研究者になっていました。そんな私が、「日本のテレビの父」と呼ばれる高柳健次郎博士が研究に邁進した静岡大学浜松キャンパスの一員に加われたことに喜びを感じています。

メディア論の大家であるマーシャル・マクルーハンは、「われわれはバックミラーごしに現在を見ている。われわれは未来にむかって、後ろ向きに行進している」という名言を残しましたが、私の研究はまさにテレビの過去から現在を問い、そこからメディアの未来を創造するものです。静岡大学が保存してきた高柳博士に関する資料は、私の研究を飛躍的に成長させてくれるはずです。その成果を、情報学部で学ぶ皆さんにお伝えする授業をおこなっていきたいと思っています。

キャリア支援室の取り組み

Career Support

令和5年度 キャリア支援室の取組み

情報学部キャリア支援室　椿 志保里

情報学部キャリア支援室は、大学の就職支援室とは別に、情報学部及び大学院情報学専攻の学生の進路支援を行う教員主体の組織です。教員のほかキャリア支援の専門事務職員を含めた5名で、年2回の進路ガイダンス、企業・官公庁のインターンシップ情報提供、企業説明会の情報提供、OB・OG会組織との連携による情報交換などを実施しています。進路ガイダンスでは、卒業生たちから実際の就職・進学や就業体験を講話してもらうことで、学生の進路選択への興味・関心を高めるように運営しております。

進学に関しては、近年学部生の約3割が大学院に進学しており、大学院進学者が増えている傾向にあります。

新型コロナの流行をきっかけにインターンシップや説明会、実際の面接に至るまでの就職活動全体がオンラインで行われる事が多くなりました。それに合わせ、キャリア支援室でも、オンラインで情報を検索し、活動できるような環境を提供しています。

情報学部や情報学専攻の学生は、情報技術やデジタルトランスフォーメーション（ＤＸ）の担い手となる人材として評価を受けることが多く、情報技術の提供側の企業（IT企業）だけでなく、製造業、金融業、官公庁、マスコミ、あるいはネットサービスの企業などにも進路を広げています。学生たちは、続々と内々定を得ておりますが、未内定学生や進路変更する学生のための支援を継続しております。

就職資料室（i-job）の様子

学生生活

Campus Life

教職を履修して得たこと

情報社会学科４年　多川 美優

教職を履修し始めて４年目となり、集大成の時期に差し掛かっています。学部学科の講義に加えて受講しなければならない通常授業や、夏季休暇の集中講義。そして就職活動と同時に教育実習の準備を始め、この夏に実習を終えました。簡単なことではありませんでしたが、教職を諦めずに履修して良かったと心から思っています。その理由は、大切な仲間と経験を得たからです。

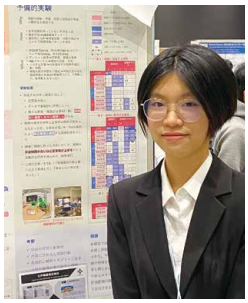
教職はコロナ禍でも唯一対面形式で行われた授業でもあり、夏休みなどは毎日顔を合わせてグループワークを行っていたため、自然と一番対話ができる重要な仲間となりました。母校の実習で再会した同期達とは、過酷なスケジュールで進む実習を乗り越え、大きな絆が生まれました。酸いも甘いもともに乗り越えた仲間が存在することは、とても頼もしいと感じています。

また、「先生」と呼ばれることの責任と愛情を身をもって知ったことは大きな経験でした。先生の言動、一挙手一投足が生徒の緊張感や安心感を左右するため、授業や講演、HRの言葉には細心の注意を払いました。私たちを含めどんな相手でも、一人一人のために動く現場の先生たちを間近で見ていて、そこにはとても大きな愛情を感じました。

これらを得たことによって、教員免許を取るという以上に、社会に出ても通用する力を身に付けることができたと考えています。

最大のチャレンジに向かって

情報科学科４年　グエン ジャン



大学の大変さとなると、卒業研究と就職活動またそのバランスを取ることをなしには語れませんが、その時こそ周りのサポートが不可欠になると思います。私の研究は情報学の応用に重点を置いており、そのために応用先の分野の知識を学ぶ必要がありました。論文の読解や自身の論文執筆も日本語での取り組みであり、新しいことばかりでしたが、指導の先生は全力でサポートしてくれました。また、多くの学会に参加する機会も与えていただきました。

就職活動においても日本の特徴に驚きました。卒業の1年以上も前から始まり、SPIから面接時のマナー等にも注意が必要でした。しかし、日本人の友人や研究室の先生、また就職相談室の方々に助けられながら乗り越えることができました。また、卒業研究で培った経験も就活で非常に役立ちました。

これから社会人になって多くのチャレンジに直面することになると思いますが、その時に今まで協力して頑張ってきたことを思い出し、周りの皆と助け合えば、必ず乗り越えられると確信しています。

静大生のためのSNS「パン・プラージュ」

情報学部の学生がシステムを開発し、運用しているSNS（Social Networking Service）をご存じですか？

「パン・プラージュ」は、情報学部の学生約500名が利用しているクローズドSNSです。パン・プラージュの「イベント」機能では、浜松キャンパス内で開催される講演会やセミナーなどの情報が案内されています。「クチコミ」機能では、浜松キャンパス周辺の飲食店の情報などが満載です。学生目線の評価から、コスパが良くて美味しいお店が見つかります。「知恵袋」機能では、先輩たちに質問することができます。期末試験対策を相談するなんてことも…。また、有志学生が執筆するWeb記事も公開されています。以下のURLからインストールしてください。https://pinplage.mcaexpf.com

学生受賞実績（一部抜粋）

小関敦生、黒須咲菜、杉本果穂、守木悠太郎、森田花梨（情報社会学科）
宇留賀大誠（大学院情報学専攻）
統計データコンペティション2022・統計数理賞

近藤滉平（情報社会学科）
第11回情報文化学会中部支部研究会等の合同研究会・優秀賞

庄司真帆人、中村光伴（情報科学科）
国際大学対抗プログラミングコンテスト国内予選で入賞

中村圭佑（大学院情報学専攻）
NCSP'23 Student Paper Award受賞

長谷川朝陽（情報科学科）、大谷祐貴（行動情報学科）、近藤梨々華（情報社会学科）、松田航征（行動情報学科）
第７回知財活用アイデアプレゼン大会・最優秀賞

山元佑京（行動情報学科）
ヒューマンインターフェース学会研究会賞

お問い合わせ　〒432-8011 浜松市中区城北3-5-1 静岡大学情報学部事務局
TEL：053-478-1510・1511　FAX：053-471-0249　学務窓口 pr-gakumu@inf.shizuoka.ac.jp

情報学部のウェブページに最新情報が掲載されていますので、どうぞご覧ください。https://www.inf.shizuoka.ac.jp/